

数字で見る 聖母病院のお産 -2025-

聖母病院産婦人科

2026年2月作成



©SUITA

2025年の聖母病院のお産を
数字で振り返ってみましょう！

2025年のお産

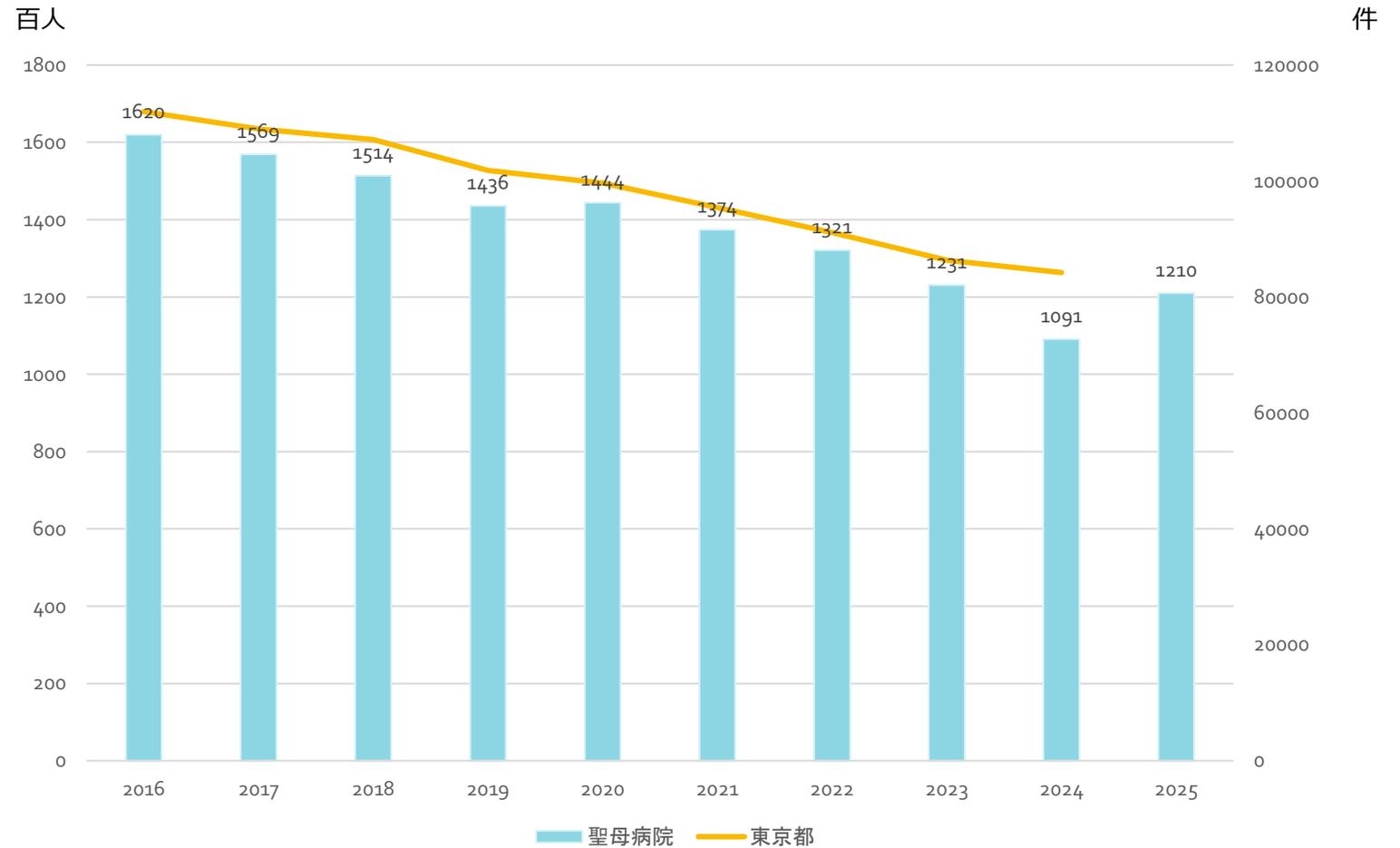
総分娩検数	1210件（うち双胎4件）
初産婦：経産婦	初産婦 697名（57.6%）平均年齢 32.3歳 経産婦 513名（42.4%）平均年齢 36.7歳
分娩様式	経腔分娩 939件（77.6%） 帝王切開分娩 271件（22.4%）内訳 予定 148件 緊急 123件
硬膜外麻酔挿入（無痛）	809件（66.9%） うち経腔分娩716件（88.5%）、緊急帝王切開93件（11.5%）

2025年も1200人以上の新しい命が誕生しました。
初産婦さんが過半数を超えていますが、リピーターの経産婦さんも少なくありません。
当院では約15年前から硬膜外麻酔分娩を始めました。2023年4月より365日24時間、無痛分娩に対応しております。



お産の数はどう変わった？

- * 当院は2025年までのデータ
- * 東京都は2024年までのデータ

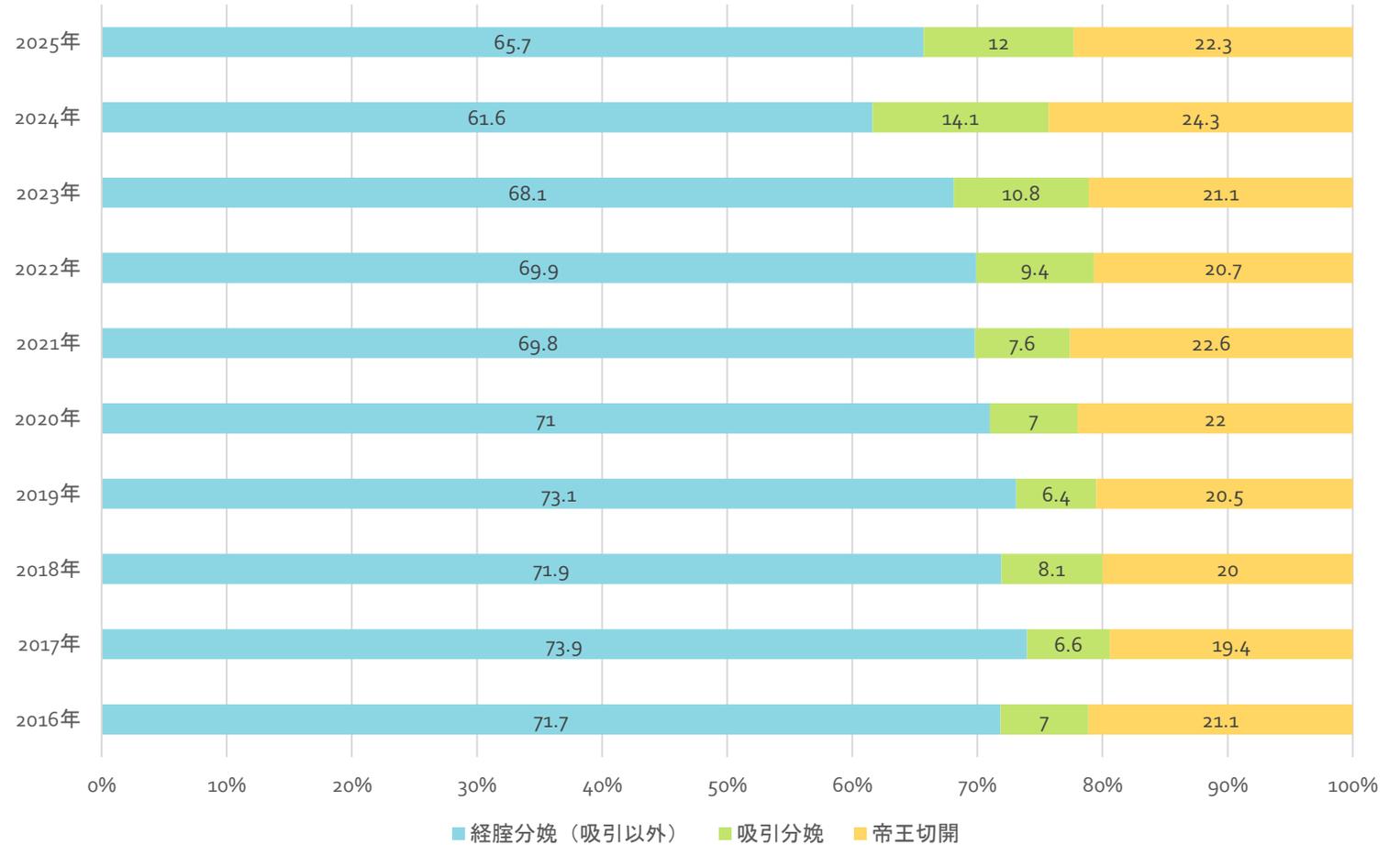


東京都の推移に一致して、当院の分娩件数は少し減少しております。しかしながら、当院は年間分娩件数1,000件以上の都内でも有数の分娩取り扱い施設です。



お産の方法は？

* 2025年までのデータ

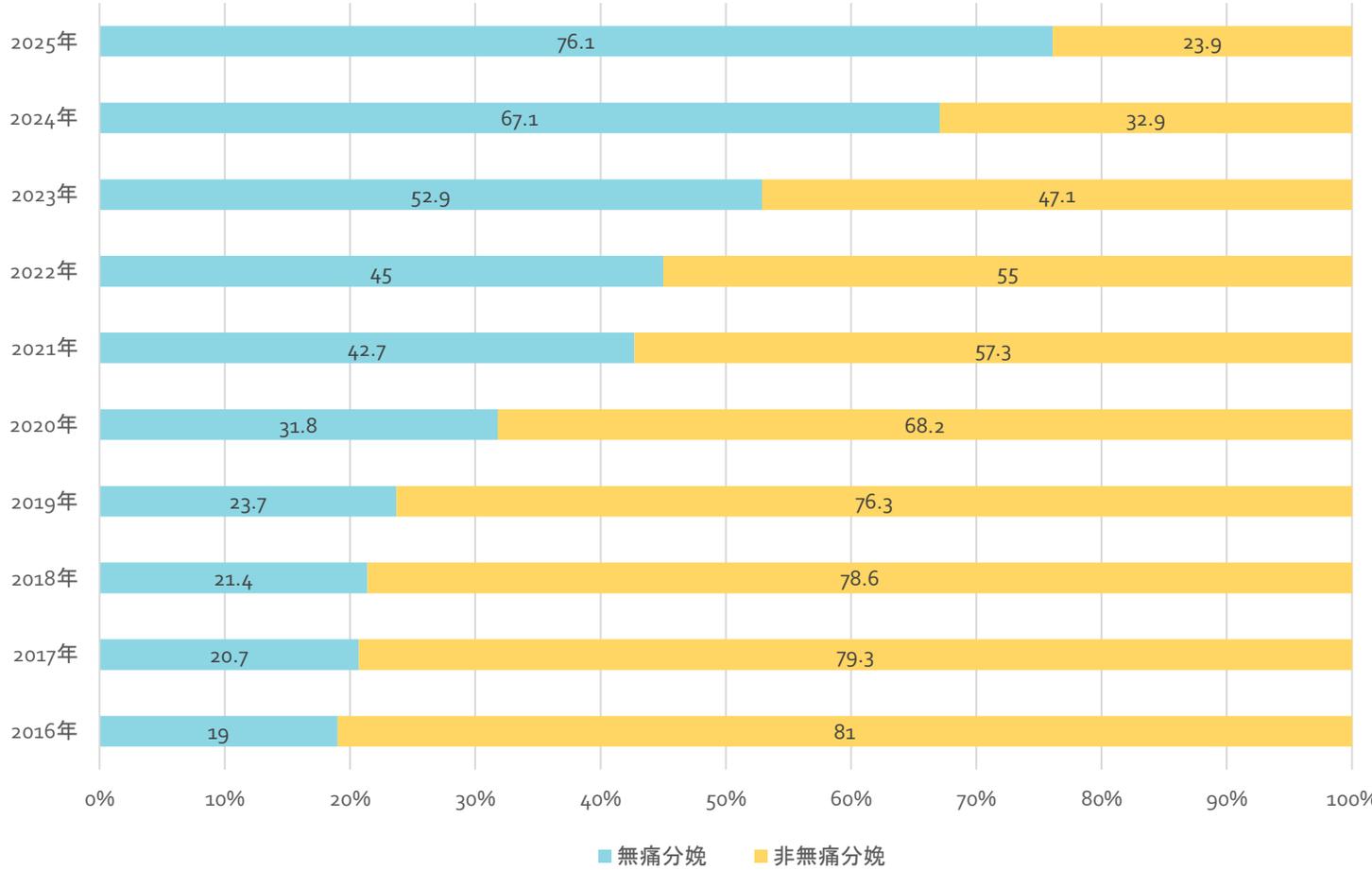


帝王切開で出産される方の割合は20%前後と大きな変化はなく、全国平均と同じくらいです。
なお帝王切開分娩の約半数は、もともと何らかの理由で帝王切開分娩が予定されていた「予定帝王切開分娩」、約半数は分娩経過中に経膣分娩が困難・不可能なため帝王切開術となった「緊急帝王切開分娩」です。



無痛分娩の割合は？ (硬膜外麻酔を使って経膣分娩をした方)

* 2025年までのデータ



無痛分娩を希望される方は年々増加傾向にあり、7割以上になりました。

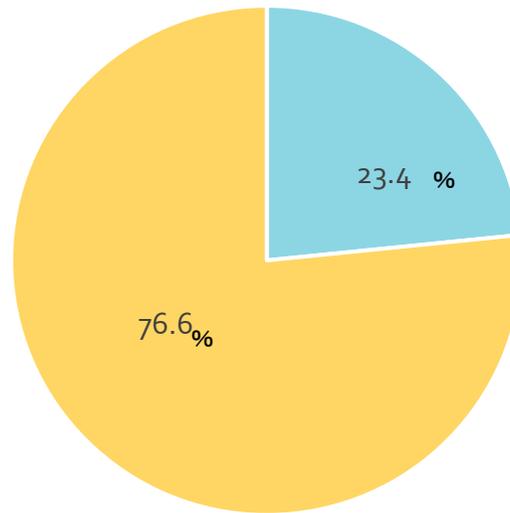


無痛分娩：
「計画」と
「オンデマンド」
どちらが多い？

* 2025年のデータ

初産婦

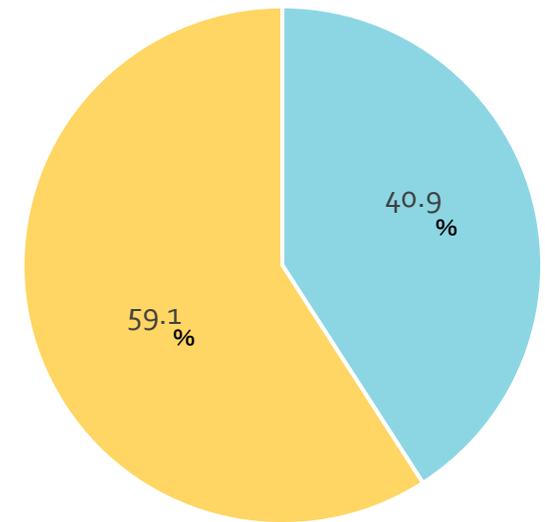
n=454



■ 計画分娩 ■ オンデマンド

経産婦

n=262



■ 計画分娩 ■ オンデマンド

「計画無痛」とは薬剤などによる分娩誘発を行い、硬膜外麻酔を導入する方法です。一方「オンデマンド無痛」は、自然陣痛を待って麻酔を導入する方法で、陣痛促進剤などの医療介入を最小限にする利点があります。2023年4月より無痛分娩が24時間可能となったこともあり、「オンデマンド無痛」が増えています。



無痛分娩の特徴は？

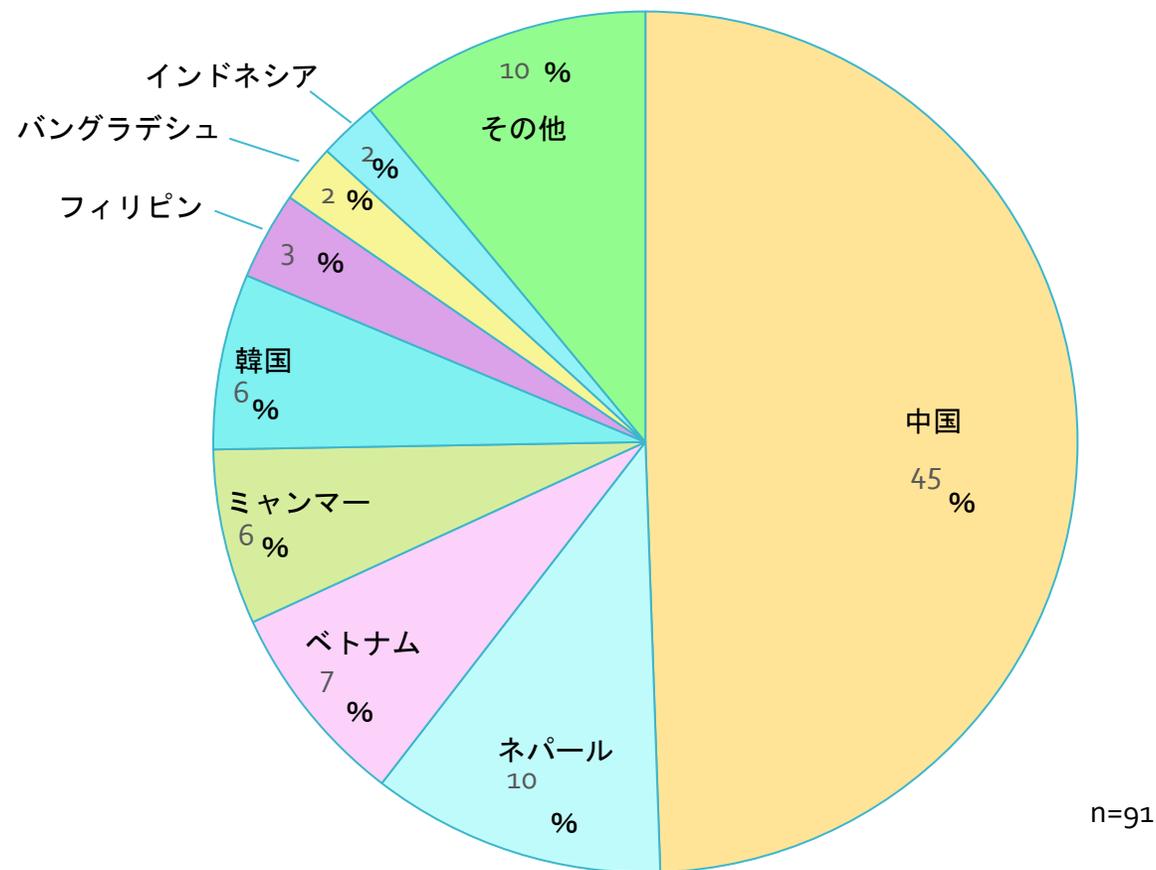
* 2025年のデータ

	初産婦			経産婦		
	無痛あり (n=540)	無痛なし (n=104)	<i>p value</i>	無痛あり (n=269)	無痛なし (n=149)	<i>p value</i>
経膈分娩	454人	78人		262人	145人	
分娩第Ⅰ期	13時間39分	9時間55分	<i>p</i> <0.001	6時間37分	4時間33分	<i>P</i> =0.004
分娩第Ⅱ期	2時間1分	1時間2分	<i>p</i> <0.001	48分	17分	<i>p</i> <0.001
子宮収縮剤使用	277人(61.0%)	26人(33.3%)	<i>p</i> <0.001	124人(47.3%)	29人(20%)	<i>p</i> <0.001
吸引分娩	122人(26.9%)	4人(5.1%)	<i>p</i> <0.001	18人(8.3%)	1人(0.7%)	<i>p</i> =0.005
会陰切開	327人(72.0%)	39人(50.0%)	<i>p</i> <0.001	52人(24%)	14人(9.7%)	<i>p</i> =0.008
出血量	592.8 g	466.4 g	<i>p</i> =0.006	382.1 g	382.8 g	<i>P</i> =0.981
輸血	7人	2人		0人	0人	
双胎の経膈分娩	1組	0組		0組	0組	
緊急帝王切開分娩	86人(16%)	26人(25.0%)	<i>P</i> =0.025	7人(2.6%)	4人(2.7%)	<i>P</i> =0.96

無痛分娩では、①分娩所要時間が長い ②子宮収縮薬投与 ③吸引分娩 ④会陰切開などの医療処置の割合が高いなどの傾向があります。

外国籍妊婦さんの出身は？

* 2025年のデータ



外国籍の妊婦さん91名のうち、中国籍の妊婦さんが約半分を占めています。他、ネパール、ベトナム、ミャンマーなどアジア各国の方々が続きます。なお当院では英語・フランス語はじめ外国語の通訳がサポートしています。



主な 産科的疾患は？

* 2025年のデータ

* 一般的頻度は『産婦人科専門医
のための必須知識』等から引用

疾患	当院		一般的頻度
	症例数	発生率	
妊娠糖尿病	78	6.4%	約5-10%
妊娠高血圧症候群	45	3.7%	約8-12%
早産	34	2.8%	約5%
常位胎盤早期剥離	10	0.8%	約1%
前置胎盤	5	0.4%	約0.5%

一定の割合で産科的異常を認めますが、一般的な発症頻度と同等です。
なお、当院は母体や新生児の集中治療室を有していません。
したがって、単胎では妊娠33週6日、双胎では妊娠34週6日以前の早産
リスクが高い場合や、母体や児に専門性の高い治療を必要とする場合には、
近隣の周産期センターと連携します。



母体搬送の理由と搬送先の施設

* 2025年のデータ

母体搬送の理由	件
妊娠34週未満の切迫早産	12
癒着胎盤	2
重症妊娠高血圧腎症	2
産科危機的出血	2
その他	7

搬送先施設	件
東京女子医科大学病院	18
都立大塚病院	4
東大病院	1
国立国際医療研究センター病院	1
日本大学医学部付属病院	1

2025年は25件の母体搬送がありました。搬送理由については、約半数が妊娠34週未満の切迫早産でした。
近隣の周産期センターに連携し、スムーズに搬送しています。

